

平成 26 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社 オ プ ト ロ ム  
代 表 者 名 代表取締役社長 三 浦 一 博  
(コード番号:7824 名証セントレックス)  
問 合 せ 先 専務取締役 大 村 安 孝  
(電話番号 0 2 2 - 3 9 2 - 3 7 1 1)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 5 月 20 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期 純利益
前期発表数字 (A)	百万円 1,960	百万円 136	百万円 70	百万円 61	円 銭 1.5
今回発表予想 (B)	1,168	△431	△549	△558	△10.0
増減額 (B-A)	△792	△567	△619	△619	
増減率 (%)	△40.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	1,933	△353	△445	△552	△17.80

#### 2. 通期業績予想の修正理由について

通期連結業績予想の売上高の内訳に関しましては、当連結会計年度第 2 四半期までの実績に加えて、第 3 四半期及び第 4 四半期の業績見通しを勘案して策定しております。

(単位：百万円)

	上半期実績	下半期予想	通期予想
売上高	579	589	1,168
デジタルコンテンツ事業	502	445	947
E・COOL 事業	77	90	167
閉鎖型野菜工場事業	0	2	2
高栄養飼料製造事業	0	51	51

### 【デジタルコンテンツ事業】

当社の主力事業であるデジタルコンテンツ事業の市況は、一時的に音楽ソフト関連において下げ止まりの感がありましたが、当連結会計年度に入り再びやや下落傾向となりました。

このような状況のもと、当社は、デジタルコンテンツ事業においては、外部倉庫の効率的な運用や施設の転用による削減効果によって、電気料の値上げによる原価上昇の影響緩和を図るなどコスト管理の徹底を図るとともに、営業面では新規顧客開拓に力点を置いた活動を実施いたしました。当連結会計年度第2四半期までの売上実績は、502,033千円と当初計画比75.1%となりました。

例年における下半期は上半期よりも受注が増加する傾向でありましたが、当連結会計年度下半期につきましては、上半期の実績を踏まえ、大幅に受注が減少することを想定しております。

したがって、当連結会計年度下半期につきましても同程度の減少と想定しており、売上高445,000千円と予想いたしました。

### 【E・COOL事業】

次世代照明業界においては、総じて企業の設備投資が伸びない中でLED照明器具の省電力化や低価格化が進むなど競争が激しさを増しました。

このような状況のもと、当社は、LEDよりも優位性のある点、すなわち、発色がよいことやブルーライトが発生しないことなどを前面に押し出すことにより、自動車業者、官公庁などを重点営業いたしました。需要が一番高まる夏場の売上の見込みが大幅にずれ込んだために、当初計画比を大きく下回る結果となりました。その結果として、当連結会計年度第2四半期までの売上実績は、77,385千円と当初計画比59%となりました。

当連結会計年度下半期につきましては、省エネ需要が一巡したことから、更なる売上高の落込みを予想しております。

一方で、本年度より、新商品として無電極ランプの販売を行っており、高評価を頂戴し一部受注をすでに受けておりますが、上半期実績を踏まえ、売上高90,221千円と予想しております。

### 【高栄養飼料製造事業】

当社は、平成26年2月27日付「新規事業の開始及び有限会社パルテックとの業務提携のお知らせ」において閉鎖型野菜工場事業の開始をお知らせし、当該事業が「計画通りに推移し、平成26年10月に第1ラインが完成し生産・販売開始できた場合、10月から11月は工員の熟練度が低いことと施設の慣熟のため生産量は抑え、本格稼働は平成26年12月からとし、当該月から生産量750トン/月、売上高は16.5百万円/月を見込んで」おる旨をお知らせいたしました。

しかしながら、設備の一部に設計ミスが発見されたため、その修正に時間を要したこと  
から事業開始が遅れております。平成26年11月よりサンプル出荷を開始しておりますが、  
本格稼働は平成27年1月にずれ込む予定となりました。

また、東北地方の外気温が当初の想定よりも落差がある影響により、熱効率の問題が発  
生し、生産量に及ぼす影響が不明であるため現在調整を行っております。

以上より、当連結会計年度下半期につきましては、売上高51,900千円を予想しており  
ます。

ただし、高栄養飼料製造事業は、一般に販売されている飼料は原材料が輸入に頼ってい  
るため、円安等を背景に原価が高騰しておりますが、当社の製品は原材料の仕入れを国内  
のみから行っており、そのような影響を受けないため、今後は競争力を高めるものと考え  
ております。

#### 【閉鎖型野菜工場事業】

当社は、平成26年4月14日付「新規事業の開始並びに株式会社みらくるグリーン及び  
合同産業株式会社との業務提携のお知らせ」において高栄養飼料製造事業の開始をお知ら  
せし、当該事業が「計画どおりに推移し、平成26年7月ごろまでに施設が完成し、生産・  
サンプル出荷を経て、平成27年9月中旬から販売が開始できた場合、年間生産量29.2t、  
同売上高116百万円（年間生産コスト87百万円）となる計画」となる旨をお知らせいたし  
ました。

しかしながら、当初全量の出荷を予定しておりました納入先より、事業開始前に想定し  
ていた価格を大幅に減額したい旨の申し出があったため、当該予定納入先に対する出荷を  
見合わせております。その結果、現在販売開始が遅れてしまっております。

そのため、当社は、当初の引受先だけに依存せず、東北地方および東京都内にて、それ  
以外の販売先を開拓すべく積極的に販売活動を行っております。なお、今後、予定納入先  
に対して出荷するか否かについては、現在業務提携先である合同産業株式会社と協議をし  
ております。

以上より、現在のところは出荷量は少なく、売上予測が立ちづらい状況になっているた  
め、当連結会計年度下半期においては、売上高2,100千円を予想しております。

ただし、閉鎖型野菜工場事業においては、近年国内においてはその数が増加しており、  
市場としては非常に有望な市場となっております。当社の行っている完全閉鎖型野菜工場  
は、設備の初期投資が多額であり、参入障壁が比較的高いことから、来年度には一定程度  
の収益の確保が可能と見込んでおります。

#### 【まとめ】

以上より、当社全体における売上高は、前回予想より792百万円減少した1,168百万円  
とし、営業利益も売上高の減少を主因として、前回予想より大きく下回る予想である△431

百万円としております。

今後につきましては、当社は、デジタルコンテンツ事業における更なる業務リストラクチャリングと E・COOL 事業の利益率の高い商品展開及びその他の事業の積極展開を中心とした中期事業再建計画を着実に実行するとともに、債務超過解消を含めた新たな資本政策を図ってまいります。

以 上

(注) 本資料に記載されている通期業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因により、大きく異なる可能性があります。